大分県現代俳句協会会報

第122号

令和3年5月30日

現代俳句歳時記　【紫陽花（アジサイ）】

紫陽花、四葩、七変化などと呼ばれ、梅雨時の代表的な花である。日本原産の額紫陽花がヨーロッパに渡り、品種改良されて日本に逆輸入された。酸性土では赤、アルカリ性土では赤紫を呈する。

兄亡くて夕刊が来る濃紫陽　　**正木 ゆう子**

第31回総会（文書）総会議案書を決議

「コロナ禍」の騒動が収まりをみせない中、幹事会、役員会がそれぞれ文書で開催されました。役員会では31回総会にはかる議案を決定するとともに、例年二月末に開かれている総会を、今年は文書総会に切り替えることを決めました。

この決定にもとづき事務局は総会に提出する議案書を作成し、全会員に郵送しました。総会が文書総会になったのは、当協会三十一年の歴史の中でも初めてのことです。

その結果、三月十七日に議案書は承認され、決議書として今年度の当協会の正式な方針となりました。

今年は二年に一度行われる役員改選の年ではありませんが、平成二八年から幹事を続けてきた白水風子氏から病気による役職と、協会賞選者の辞退の申し入れがあり、承認されました。また「コロナ禍」の中でも、引き続き新会員が増えていることが確認されました。

協会に教えあい学び合う気風を

あなたが中心になって句会を開きましょう

会員増加に即応した新しい協会の気風を確立しよう

俳句が上手くなりたいと思って入会した新会員に、勉強の場を提供することは協会として当然のことです。「先輩の背中を見て学べ」というかつての指導法は通用しなくなっています。

本年は会員が俳句活動の中で生じた疑問を、日常的に質問できる制度を作ります。また会員が仲間を集めて定期的な句会を開く場合、事後の申請であっても経費の一部または全部を協会が負担することにします。

これは「会員ファースト」を協会の中心に据えるためですが、同時に新会員を迎えるために不可欠なこともあります。「協会の影響力を広げる」ために避けて通れない課題です。

第23回　大分県現代俳句協会賞

足立町子氏「出口のない街」

敢闘賞に平田千代子氏「前へ前へ」・神慶子氏「長い雨」

順位	タイトル	作者	選考委員 有村王志	成清正之	河野輝暉	谷川彰啓	あべまさる	上田たかし	伊藤利恵	合計点	賞
1	出口のない街	足立　町子	4	5	5	5	5	5	4	33	協会賞
2	前へ前へ	平田千代子	2	3	1	3		4	4	17	敢闘賞
3	長い雨	神　慶子	3	2	3	4	1	1	1	15	敢闘賞
4	知恵の輪	佐々木　玉	3	2		1	2	2		10	奨励賞
4	綾取りの縺れ	鎌倉真由美		3	1	2		3	1	10	奨励賞
6	蟬の家	松廣　李子	3		1				5	9	奨励賞
	新型コロナと滑稽	甲斐　素純									
	回想録と私	大神　愛子									
	涼しさは	油布　晃									
合計点			15	15	15	15	15	15	15	105	

【県現代俳句協会賞について】

第23回大分県現代俳句協会賞には9名の応募がありました。このうち6名が初応募でした。これは事務局が「一流の先生方に自分の作品が審査してもらえる絶好のチャンス」と強く勧誘したことによります。

これまで協会賞は、会員の腕自慢大会のような要素がありました。しかし腕自慢だった会員も、協会賞を休止した7年間に年を取り、河野輝暉会長（当時）が就任時に築いた協会史上最大の会員数も、続く二代の会長時に減り続けました。河野会長が退任した平成24年から、平成30年の有村王志会長と現役員の代になるまでの6年間、新会員の勧誘はほとんど行われていません。

古参の会員の中には、敢闘賞や奨励賞を増やしすぎではないかという意見を持たれている方もいます。しかしこれからの協会賞は、昔のようにはいきません。問われているのは協会賞の廃止（それは協会自体の閉鎖と同義ですが）か存続かの二択です。存続させるとすれば、協会賞を受賞できる実力の会員を、たくさん育てる以外にありません。幸い今の役員のもとで、50名以上の新会員が「勉強したい、俳句が上手くなりたい」という目的で協会の門を叩きました。これからの協会賞は、全ての会員に勉強のために開かれたものであることが総会で決定されています。

とは言え、それによって協会賞の権威とレベルをいささかでも落とすことがあってはなりません。当協会の目指す「現代俳句」の成果と方向性を、協会内外に指し示すのが協会賞です。全ての会員はまさに「一流の先生方に自分の作品が審査してもらえる絶好のチャンス」になっています。ぜひ来年は、その時点での実力を客観的に見てもらうためにも、協会の活性化を図るためにも、積極的なご応募をお願いします。

そしてもうひとつ、忘れてならないのが選考委員のことです。当協会の選考委員は、他県はもちろん中央と比較しても、互角以上の実力を持っていると、自信を持って断言できます。選評を掲載することによってその選考に対する考え方と、選考の過程をオープンにします。ぜひ選考の方法を学んでください。作句と同様選句も訓練しなければ上達しません。俳句が上手くなれば自動的に選句も上手くなるというのは錯覚です。一流の選句は、自分の選句法とどこがどう違うのか、それを勉強するのも協会賞の楽しみの一つです。

今協会は人材を育てています。明日の選考委員になるのはあなたかもしれません。協会賞に興味を持つことが、俳句上達の一番の秘訣です。

○

今回の選考結果は、一位に十分点数が入り、かつ二位以下と点差が開いているため、有村選考委員長と事務局で相談し、二次審査を省略し、各賞案を決めました。これを各選考委員に諮ったところ、承認を得られましたので表の通り、決定しました。

第23回大分県現代俳句協会賞

出口のない街

足立　町子

海からの風が桜を甘くする
街中のおんな発光して日永
糸巻きは終わったかしら花菜雨
斎場の蛾は現世にまみれたり
もう母をやめていい頃月見草
父もまた棚田を植えて消えゆけり
緑陰に誰かが過去を焼いた跡
蛇衣に涙のあとがまだ残る
花合歓の祈りの中を濁り川
噴水の天辺にあるピエロの目
若冲の鶏が掘り出す解夏の種
出口なき街に九月の蝉時雨
衣被つるんと母の愚痴零る
枝豆のはしゃぎすぎないとこが好き
仏壇の母も味方につけて冬
枯律会いたいときは目をつぶる
寒月にカラカラと鳴る母の骨
マラソンの荒き呼吸も春の色
炉心へと日矢がつらぬく建国日
待つという日の手触りや蕗の薹

【受賞のことば】

自信や手ごたえのないまま、気がつけば俳句を始めて十五年が経ちました。そうすると、たとえば地元の句会などでも、お世話をしなければならない後輩が増えてきます。

人に教える柄ではないと思いながらも、自然とお世話することにも慣れてきました。同時に後輩の意欲や感覚がとても刺激になり、それが自分のモチベーションの向上になっていることに気づき、はっとします。

義父の介護のために、夫と一緒に俳句を始めました。句会に出かけるのも、吟行に出かけるのも一緒で「それだけ一緒なら俳句も似てくるでしょう」とよく言われますが、そんなことはありません。やればやるほど、義父とも夫とも、作風がどんどん離れてゆく。それが俳句の楽しみだと思います。

私を支えてくれた成清正之先生をはじめ諸先輩に、心からお礼を申し上げます。

またこれからもどうか変わらないご指導をよろしくお願いします。

協会賞の選考には総会で承認された、有村王志会長（選考委員長）、成清正之顧問、河野輝暉顧問、谷川彰啓顧問、あべまさる副会長、上田たかし副会長、伊藤利恵氏の7人が担当しました。白水風子氏は病気のために辞退しました。

選考方法は以下のとおりです。①活字化された全9作品を、名前を消した状態で応募順に並べて、各選考委員に届ける　②各選考委員はこの9作品の中から5作品を順位をつけて選び出す。タイトルや句の並べ方も評価に加える　③それらに持ち点の15点を自由に振り分ける　④ただし最高点は5点とする　⑤一位に選んだ作品が協会賞に値しないと思うときは、15点全てをを使い切らなくてよい…というものです。

協会賞以外の授賞作品

【敢闘賞】

「前へ前へ」　平田千代子
「長い雨」　神　慶子

【奨励賞】

「知恵の輪」　佐々木　玉
「綾取りの縺れ」　鎌倉真由美
「蝉の家」　松廣　李子

第23回大分県現代俳句協会賞・各選考委員選評

各選考委員から事務局に寄せられた選句と選評を、到着順に掲載します。なおその時点では各作品の作者名が分かっていないので、あとから事務局で書き加えました。

日常の微妙なクローズアップ　河野　輝暉

一位　5点　「出口のない街」
二位　4点　「新型コロナと滑稽」
三位　3点　「長い雨」
四位　1点　「綾取りの縺れ」
四位　1点　「前へ前へ」
四位　1点　「蝉の家」

選句力と作句力は同程度だ、との趣旨を述べたのは虚子である。重責である。今回9名、三位くらい迄決まるのは割と早かった。

一位「出口のない街」（足立町子）は、地肌感覚、日常の微妙なクローズアップに秀れている。

もう母をやめていい頃月見草
衣被つるんと母の愚痴零る
枯律会いたいときは目をつぶる

言われてみれば誰にも分かる句だが、誰にも作れない句ばかりだ。悲哀の中に常に明朗さを失わない情念が深い。

寒月やカラカラと鳴る母の骨

この一句に力音が3個、ア音が8個。内容もさりながら、リズムがよい。韻律は思想だ、と書いていたのは田原千暉師である。

二位「新型コロナと滑稽」（甲斐素純）

先ず題から句になっている。パンデミックの時世を笑い飛ばして句に。コロナの句が7つ。

父の日や妻の一言「そうなのね」
蠅叩き妻の視線が気にかかる
秋深しただ居るだけでそれでいい

軽み、面白み、穿ちは川柳の三要素である。俳句と川柳との二融合の嚆矢的連作だ。

三位「長い雨」（神慶子）

鼻につくトリックとは無縁で、素直な巧みさがよい。知る、味わう、楽しむ、の三段階を孔子は言った。

この作者はこの梯子を登っている様でこれからが期待される。

ノースリーブの腕のまぶしき爆心地
たのしそうに淋しそうに水海月
GOTOのちぎれちぎれに葛の花

作品の安定感　あべまさる

一位「出口のない街」（足立町子）5点

街中のおんな発光して日永
もう母をやめていい頃月見草
出口なき街に九月の蝉時雨

二位「回想録と私」（大神愛子）4点

初恋の苦き想い出蕗のとう
青春の淡き片思い教師なり
秋の風心の寂しさいやす孫
供えたるおはぎ喜こぶ遺影の夫

タイトルは作品全体をまとめており、今伝えたい、残したい俳句を表している。家族愛の思いが伝わって好感がもてる。

三位「新型コロナと滑稽」（甲斐素純）3点

花疲れ無きままコロナ疲れかな
父の日や妻の一言「そうなのね」
連日の残暑残暑やよござんしょ
秋深しただ居るだけでそれでいい

安心して「集まる」ことがこんなに困難だと云う世の中での作品が多いが、タイトルに新型コロナと滑稽を組合わせた事がユニークだ。

四位「知恵の輪」（佐々木玉）2点

地下深し都会のどこに地虫出る
女郎蜘蛛山を逆さに見ていたり
竹編みの残る暑さも組み合わす
知恵の輪のはずれて鰯雲流れ

全般的に背景を引きだして、バランスの良い作品をまとめている。

五位　「長い雨」
（神　慶子）1点

降り止まぬ雨や秋思が饐えてゆく
つわぶきの花のかたちに雨が降る
花水木空に希望と書いてある
楽しそうに淋しそうに水海月

生命観のある抒情　有村　王志

一位3番「出口のない街」
（足立町子）4点

海からの風が桜を甘くする
街中のおんな発光して日永
もう母をやめていい頃月見草

やわらかい市井の中の柔軟な言語感覚、その詩情のたゆたゆ感の完成をみる。

蛇衣に涙のあとがまだ残る
枝豆のはしゃぎすぎないとこが好き
待つという日の手触りや蕗の薹

抑揚の効いた、しっかりとした語り口から、生命感のある抒情に溢れている。

二位5番「知恵の輪」
（佐々木玉）3点

地下深し都会のどこか地虫出る
たんぽぽや独立独歩貫くか
女郎蜘蛛山を逆さに見ていたり
知恵の輪のはずれて鰯雲流れ

気分一新して人生を楽しんでいる句が並び、派手やかさはないが揺ぎなく纏めてある

昨年とは違った意味で力作が多く楽しく選をすることができた。来年にも期待している。

ともに社会性をもつ力強い作品で自在な日常を素材に十分な感性が窺える。ただ、

かなかなや悲しい話あるそうな

などは妥協しすぎており、今後の課題である。

二位6番「長い雨」
（神　慶子）3点

半日を愚痴の聞き役草の花
つわぶきの花のかたちに雨が降る
脱皮した顔で二人の年酒酌む

素材を周辺の自然物を借りての抒情の吐露、その獲得の展開となっており、体内処理の経た作品。

「脱皮した顔」の形象化に今後を期待したい。

二位7番「蝉の家」
（松廣李子）3点

麦踏や風はころころ地の起伏
星ひとつ下さい遺骨なき墓に
紅葉かつ散る悟りの窓のなほ深き

応募作品のなかでは、どちらかというと意味の重層感、その力強さ・言語空間の伝達に魅かれた。

この言語空間の配合が結実した作品は協会賞に値する。しかし、やや途上の作品も散見される。例えば、

進退を正し楷書の去年今年

の「正し」は説明。また、季語（季感）との配合も今後の課題。

うたた寝の適正量は姫女苑

などである。

確かな生の躍動　伊藤　利恵

一位「蝉の家」
（松廣李子）5点

前の句の余情を次の句が広げる構成のうまさが光る二十句であった。色彩豊かに詠まれた日常の中に「看取り」があり、死を通奏低音とした ことで生の躍動が確かなものとして伝わってきた。

麦踏や風はころころ地の起伏
お薬師の水たゆたひて遠蛙
ゴム跳びを路地いっぱいにわらび餅

一句目は足裏の感覚に風の伴奏が加わった心地よい作品で、二句目三句目は季語の斡旋が面白く読み手の視界を展げる佳句。そして抄中で最も感動したのは、

ダリに色貰ひし記憶冬はじめ

の作品であり、この作者の「ものをつくりだすこころ」の原点が書かれているようで魅力的であった。

ほかに、

重陽や母のかをりに振り向きぬ
葬時雨添ひ寝の父の夜が白む

等も読み手が感情移入し易い句でありこころに残った。

五位8番「前へ前へ」
（平田千代子）2点

ラガーらの厚き胸板前へ前へ
セピア色の戦争があり注連飾る
鬼やんま自由に生きてやや孤独

作品内容がすーと頭に入りこみ、じんわりと想いが広がる。やわらかな詩情の展開に期待する

「鬼やんま」の作者の立ち位置とナイーブな言語感覚に今後を期待したい。

二位「出口のない街」
（足立町子）4点
糸巻きは終わったかしら花菜雨
花合歓の祈りの中を濁川
仏壇の母も味方につけて冬
マラソンの荒き呼吸も春の色
待つという日の手触りや蕗の薹

等やさしい情感が無理なく書かれた作品に好感を持った。全体的に破綻なく纏まっていて作品化する力量のある作家だと思った。

欲を言うと平均的な感慨で終わっている句が多かったのが惜しまれる。俳句と対峙するのにもう少し我儘になっても良いのではないだろうか。

例えば「若冲の鶏が掘り出す解夏の種」について、「解夏の種」は推敲の余地がありそうだが、このような方向を探っていくのも一つの方法だと思う。

二位「前へ前へ」
（平田千代子）4点
アフガンの血の塩なれや中村忌
ラガーらの熱き胸板前へ前へ
藤村もカフカも処分して初日
掃納め子らは煙を着て遊ぶ
遠足という青空の予約席

コロナ禍で暗い話題の多かった年に元気な句が並び心強かった。四句目の「子らは煙を着て遊ぶ」の描写はとくに素晴らしく、つくづくと感心した。

梵鐘の一打で夏の星となる

の作品も、王道の俳句というか俳句形式のよろしさ溢れる一句であった。アドバイスというのもおこがましいが、「裏返る水の鼓動や鳥帰る」については、「裏返る水の鼓動」の詩語に対して、結句の「鳥帰る」がなんともったいなく推敲すればよい作品になると思った。

四位「綾取りの縺れ」
（鎌倉真由美）1点
綾取りの縺れをほどく文化の日
無心する息子に白髪落椿
食べて寝て雲雀になってまた眠る
小さき嘘ついた日に会う放屁虫

「無心する息子に白髪」は川柳的仕立てであるがこのトホホ感は捨てがたかったし、「雲雀になってまた眠る」という展開も新鮮であった。

「新鮮」は宝物である。

四位「長い雨」
（神　慶子）1点
また宵の雨降る窓やとろろ汁
被災ごみ高く積み上げ秋逝けり
幸せのまっただ中にある昼寝
ポインセチア一番似合う服を着る

日常を気負わずに書いているところに惹かれた。「ポインセチア」の句に代表される清涼感がこの作者の持ち味と思う。

言葉にリアリティを　谷川　彰啓

九編という応募は近年最高ではなかろうか。それだけに作品の選考には力が入った。主として今日性を加味した意欲的で、少しでも新しい試みが感じられ、言葉にリアリティがあり、発想の良さが感じられる作品を選出の基準とした。

一位「出口のない街」
（足立町子）5点
街中のおんな発光して日永
斎場の蛾は現世にまみれたり
噴水の天辺にあるピエロの目
出口なき街に九月の蝉時雨
炉心へと日矢がつらぬく建国日

レベルの高い作品群で発想の良さと質の高さは群を抜いている。

二位「長い雨」
（神　慶子）4点
降り止まぬ雨や秋思が饐えてゆく
被災ゴミ高く積み上げ秋逝けり

昨年に続き今年もたくさんの作品に出会う機会をいただきお礼申し上げます。選考する中で改めて季語を調べたりもして、わたくしにとっても良い学びの場でありました

三位「前へ前へ」
（平田千代子）3点
末枯れの木々が貫く森の意思
まだ過去に縛られている茨の芽
つはものの夢のかたちに朴咲けり
遠足という青空の予約席

四位「綾取りの縺れ」
（鎌倉真由美）2点
抱擁のすき間をうめる秋の風
枯菊を焚いて老人無口なり
野苺を噛んで昭和を締めくくる

五位「知恵の輪」
（佐々木玉）1点
古井戸のポンプの軋み冴返る
蟠り解けてこぼれる露の玉
束の間の風のみちくさ真葛原

知性・感性・今日性　成清　正之

九編の応募作品はそれぞれの個性が良く活かされて、今日の県俳壇の充実振りをそのまま反映させており、完成度の高い多彩な表現力を見せているように思いました。それをどう評価するかはかなり難しく大いに迷わざるをえませんでした。

結局は俳壇で強調されている「知性・感性・今日性」が表出されている作品を推挙させてもらいました。

一位「出口のない街」
（足立町子）5点

海からの風が桜を甘くする
もう母をやめていい頃月見草
出口なき街に九月の蝉時雨
炉心へと日矢がつらぬく建国日

とにかく自由な発想と新しい感覚で、自在に素材を活かし、今日の俳句を紡いでいます。

二位「前へ前へ」
（平田千代子）3点

アフガンの地の塩なれや中村忌
セピア色の戦争があり注連飾る
つはものの夢のかたちに朴咲けり

俳句の古い既成観念から離れた記述で素材をよく活かしています。

二位「綾取りの縺れ」
（鎌倉真由美）3点

食べて寝て雲雀になってまた眠る
見世先の金魚遊女の目を宿す
露けしやベンチの二人ゆるく解け

具象句も抽象句も自由に纏める技法を身につけている強み……を評価しました。

意欲的な取り組み　上田たかし

全体に安定した句が並び、よく整っている。詠まれている内容が豊富で、意欲的な取り組みを感じる。

一位「出口のない街」
（足立町子）5点

街中のおんな発光して日永
緑陰に誰かが過去を焼いた跡
噴水の天辺にあるピエロの目
寒月にカラカラと鳴る母の骨

全句にバラツキがなく、安定している。ことばは平易だが奥行きのある内容が包含されている。共感を呼ぶ句が多い。

二位「前へ前へ」
（平田千代子）4点

回想の縁にからまる蝌蚪の紐
セピア色の戦争があり注連飾る
まだ過去に縛られている茨の芽

三位「綾取りの縺れ」
（鎌倉真由美）3点

野苺を噛んで昭和を締めくくる
合鍵を捨てまいまいになってゆく
朝顔に嫉妬している夜勤明け

実生活を上手に表現している。全体が意欲的で安定している。バラツキもなし。

四位「知恵の輪」
（佐々木玉）2点

叱られて帰りたくない春夕焼
噴水のリズムに乗って遊ぶ風

四位「長い雨」
（神　慶子）2点

降り止まぬ雨や秋思が饐えてゆく
被災ごみ高く積み上げ秋逝けり
ノースリーブの腕のまぶしき爆心地

端正に対象を捉え、抑制した表記で平明な句にしています。これも大事な俳句技法のひとつです。

四位「知恵の輪」
（佐々木玉）2点

母の日のいつも変わらぬ母の顔
女郎蜘蛛山を逆さに見ていたり
束の間の風のみちくさ真葛原

俳句は「主張を聞かせる」ものでなく、「主張を感じさせるもの」……感じさせる作品でありたい。

この言葉は同時に、俳句に関わる上での、自身への戒めです。

かなかなや悲しい話ありそうな

やさしい表現で伝えようとしたところに惹かれた。

五位「長い雨」
（神　慶子）1点

降り止まぬ雨や秋思が饐えてゆく
花水木空に希望と書いてある
幸せのまっただ中にある昼寝

よい情感の句の中に、一部説明的なものが含まれているのが惜しい。

第23回 大分県現代俳句協会賞 応募作品抄

※事務局抄出

【敢闘賞】
「前へ前へ」　平田千代子

アフガンの地の塩なれや中村忌
ラガーらの厚き胸板前へ前へ
セピア色の戦争があり注連飾る
遠足という青空の予約席
梵鐘の一打で夏の星となる
鬼やんま自由に生きてやや孤独

【敢闘賞】
「長い雨」　神　慶子

半日を愚痴の聞き役草の花
降り止まぬ雨や秋思が饒えてゆく
弱い者同士が集う日向ぼこ
ポインセチア一番似合う服を着る
まだ未練たらりはらりと落椿
ノースリーブの腕のまぶしき爆心地

【奨励賞】
「知恵の輪」　佐々木　玉

ぶらんこや両手に匂う鉄の錆
古井戸のポンプの軋み冴返る
地下深し都会のどこに地虫出る
叱られて帰りたくない春夕焼
女郎蜘蛛山を逆さに見ていたり
竹編みの残る暑さも組み合わす

【奨励賞】
「綾取りの縺れ」　鎌倉真由美

抱擁のすき間をうめる秋の風
音のない介護施設の菊薫る
食べて寝て雲雀になってまた眠る
野苺を噛んで昭和を締めくくる
朝顔に嫉妬している夜勤明け
小さき嘘ついた日に会う放屁虫

【奨励賞】
「蝉の家」　松廣　李子

ビオロンの弦きりきりと寒椿
麦踏や風はころころ地の起伏
春暖の猫の耳石のなほまろし
星ひとつ下さい遺骨なき墓に
ダリに色貰ひし記憶冬はじめ
葬時雨添ひ寝の父の夜が白む

「新型コロナと滑稽」　甲斐　素純

花疲れ無きままコロナ疲れかな
三密を避けて抜き撃ち揚げ花火
菊薫る表彰式もコロナ禍で
父の日や妻の一言「そうなのね」
一茶にはなれぬわいなと蠅叩く
秋深しただ居るだけでそれでいい

「回想録と私」　大神　愛子

初恋の苦き想い出蕗のとう
夫逝くしゃぼん玉の夢を見る
梨好きな息子の皿に多く盛る
ワレモコウ友が母思う哀愁歌
虫の音を聞きつつ眠る子守唄
母の年越して安堵の弥生月

「涼しさは」　油布　晃

渾身の手紙したため朝涼し
沢庵のすっぱり切れて朝涼し
ボールペンさらさら滑り朝涼し
君の窓ぼく色にして涼しかり
パソコンの仕事カタカタ涼しかり
礼状の青いインクの涼しかり

中山宙虫氏「霏霏」を継承

当協会の前副幹事長である中山宙虫氏（熊本）は、星永文夫氏が県内外に発信していた有力俳誌「霏霏」を継承し、「霏霏Ⅱ（ネクスト）」会を結成、その会長に就任しました。星永氏は東京へ移転し、顧問として霏霏Ⅱにも参加します。

写真の「霏霏Ⅱ（ネクスト）」は季刊誌。本年一月が創刊で、最新刊は春号（第二号）。細部まで中山氏のこだわりが見える良誌です。

この国をおおむね信じ蕎麦の花
デジタルが雪を神話に変える村
（宙虫氏・霏霏Ⅱより）

令和二年度 年間一句賞 発表

玉葱が滲みただけですほんとです
陣野千恵子

〔成清 正之 推薦〕

俳句の文体はいろいろある。好きな文体で自分の思いが表現できれば、こんな嬉しいことはない。

掲句は、俳句の既成概念から離れた自由な発想と感覚で、自分を丸裸にした等身大の心情を吐露し、連想と暗示を活かし、物語りを展開している。

これからどんな作品を見せてくれるか楽しみである。これらの文体を駆使して、県俳壇に新風を送り込んだ平成十年代の伊藤利恵さんを想い出し、その再来かとときめくものを覚えた。

ぶらんこは高くふるさと捨てる朝
上田たかし

〔有村 王志 推薦〕

幼少期の頃、小学校や公園に設けられている「ぶらんこ」を漕いで楽しんできた記憶がある中、この作者はその郷愁とも思える原点の産土・ふるさとを捨てなければならない人々への想いが膨らんでいる。

その心境。下五の「朝」への措辞に、万感の思いを込めた作者が存在する。

年々高齢化社会になり、周辺には空き家が目立ち、一人住まいの家も多い。そうしたふるさとへの切なさなど胸たぎる告発ともいえる。

原爆忌飯くってまた飯つくる
瀬川 剛一

〔河野 輝暉 推薦〕

人類が最初に被爆した日本の戦前戦後。食糧難が文字通り生きて行く上の大問題であった。「武士は食わねど高楊枝」どころではなかった。

日本兵の名誉の戦死も飢え死にが多かったと聞く。掲句の、飯、のリフレインは構成としては単純過ぎる様にも見えるが、戦況以上に内心はいかに食うことで頭が一杯であったか、を語って如実である。

人類が最初に罹患した新型コロナウイルス禍。これによって飲食店、観光業関係者等さまざまな業種の収入が無くなり、雇い止め、学生の学資やバイトの中断など、一日一食しか食えない現状をマスコミは伝えている。古典を紐解けば、元日に三つ子さとを死なせた一茶の「寂しさに飯をくふなり秋の風」があり、芭蕉の、其角の句に反撃した「朝顔に我は飯食ふ男かな」等をも連想する。

無事是富貴。当句は単にノスタルジィに非ず。平和とは反戦の努力が息絶える間の事であってはならない。

枯葉とぶ命の音を残しとぶ
菅 攝子

〔谷川 彰啓 推薦〕

春に芽を出し、若葉となって揺れ、夏は濃い緑を繁らせ、秋はそれぞれに色づき、やがて枯葉となって散ってゆく。

これが樹木の命の定め。樹々にも安らぎの時はあった筈。そして台風など、さまざまな苦渋の時が秘められているに違いない。

枯葉となって散ってゆく葉に〈命の音を残しとぶ〉とした表記に、作者の感性が光る。

横山康夫氏（中津市）発行
俳句誌「周」第3号

会報119号で創刊号を紹介した俳句誌「周」は、順調に発展をつづけ、五月には第3号が発行された。会員の自薦作品を中心に、作品評、俳句論、書評などがバランスよく掲載されて読み応えがある。

ラガー等の凱歌は濡れてこそよけれ
一月の戀一月の紅をひく

問い合わせは横山康夫氏まで。
０９７９（62）３１２４

甲斐素純氏（九重町）発行
さくら草句集第十一号

九重町さくら草句会（原田勝子会長）の令和二年度の活動をまとめた記録誌。今号で十一号になる。会員の自選句や句会投句作品、句会の活動記録を掲載。

今号は句会の創始者である駒走松恵氏（故人・県協会員）の句碑の除幕式を特集。全カラー。ページ。

問い合わせは九重玉八幡宮まで。

令和3年 大分県現代俳句大会を初の紙上大会で開催

今年度の大分県現代俳句大会は、人が集合することに不安を感じている会員が多いことを考慮して、協会史上初の紙上大会として開催しました。広く県内に打って出るという総会決議にもとづき、新聞広告やビラまきに力を入れました。また知事賞、市長賞のほか、今回は県と市の議会賞も用意しました。会員外からも多数の応募があり、総数が５５８句となりました。応募した県会員全員と一般の希望者も選句にあたりました。

【大会大賞】
牡蠣すする指の先まで日本海
（大分市）谷川　彰啓

《受賞の言葉》

職場のＯＢ仲間と一緒に、旅をしたときの一句です。実際の体験に基づいた俳句なので、実感がこもっていたのかも知れません。ありがとうございました。

【大分県知事賞】
飛花落花どこへも行かぬ父の靴
（豊後大野市）足立　攝

【大分市長賞】
ダム底に捨て墓いくつ鳥渡る
（国東市）河野　輝暉

【大分県現代俳句大会賞】
マニュキュア塗る春愁ほどの重さ塗る
（大分市）河野　秀子

【大分県現代俳句協会長賞】
白魚の奈落の底へ喉仏
（国東市）吾　亦　紅

【大分県議会賞】
メール打つ指はおしゃべり百千鳥
（大分市）園田　武子

【大分市教育委員会賞】
生まれるも死するもひとり春の潮
（豊後大野市）吉田　素子

【大分市議会賞】
陽炎の中に昨日を置いてくる
（豊後大野市）足立　町子

【大分合同新聞社賞】
駅ピアノ春愁の指置いてくる
（日田市）瀬川　剛一

【ＯＢＳ大分放送賞】
冬日向ここはひとりの植民地
（大分市）成清　正之

【ＴＯＳテレビ大分賞】
初蝶や女の齢よく乾く
（大分市）菅　攝子

【ＯＡＢ大分朝日放送賞】
なにか産みたそうに揺れる春の月
（大分市）伊藤　利恵

【大会優秀賞】三名
天の川きれいな嘘の相聞歌
（豊後大野市）上田たかし

【大会優秀賞つづき】
振り向けば影も色づく秋夕日
（国東市）岡野　成美

陽炎やいつの昔にもどろうか
（豊後大野市）稲田久美子

【大会優良賞】六人
ふる里は限界集落椒芽吹く
（国東市）木村　説子

プライドを脱げば八十路も春景色
（大分市）田口　辰郎

冬椿今は一人で歩く道
（大分市）早澤まり子

枯野きて手帳に残る風の音
（国東市）立麻　琴路

野火走る兜太の気骨受け継がな
（杵築市）下司　正昭

憲法九条伸びてちぢんで大蚯蚓
（九重町）桐野　力

【大会奨励賞】十四名
竹林に木洩れ日拾ふ藪椿
（大分市）安森　範明

【大会奨励賞つづき】

歩けるかまず足に聞く霜の朝
（大分市）飯田　幸子

折り合いのついた南瓜に花が咲く
（大分市）本田　圭子

陽炎や土管の中にある昭和
（豊後大野市）鎌倉真由美

食パンにハムとチーズと春はさむ
（日田市）森山　秀子

白靴の穴はあの世を覗いてる
（香川県）合田　陸翔

フクシマ十年六法全書開いたまま
（竹田市）有村　王志

蓑虫の糸一本に揺れ惑う
（大分市）嶋末　洋子

竹籠に笑顔を詰める茶摘どき
（豊後大野市）赤嶺　信子

コロナ禍の真ん中にある春の闇
（大分市）平田千代子

鬼やんま座敷一周異常なし
（佐伯市）御手洗豊海

ぱっくりと春　付属品として胃がん
（大分市）松廣　李子

マニュキアの十指を春の陽にかざす
（豊後大野市）陣野千恵子

にんげんを分かつ二月の風ぐるま
（豊後大野市）梶原　千代

ことば遊び俳句のススメ

《寄稿》

久枝 花城

私は十年前から、主に言葉遊びの入った俳句を作っています。それ以前はしばらく「普通」の俳句を作っていたのですが、やがて句中に**頭韻**（句中の主に二つの語の頭音が同じ）の語があると、句のメリハリ、印象が強くなったり面白味も加わったりすることに気付き、このような句を意識して作るようになりました。

そしてそこからさらに、**脚韻**（句中の主に二つの語の末音が同じ）、**反復**（複数の語が同じ語）、**語呂合わせ**（違う語だが同じ読み音）、**掛詞**（一つの語が複数の意味を持つ）、**回文**（一つの語や文が下から読んでも同じ読み音）などへ広がって行きました。

《ことば遊びは神代の昔から》

そこで図書館に行って調べると、これらは日本の古代からの「言葉遊び」で、さらに数多くの言葉遊びの種類があると分かり、また言葉遊びのことばだけで一冊になった本も何冊もあり驚きました。

また、現在の「俳句」もそれ以前の「俳諧」時代には、専ら言葉遊びのものだったとよく分かりました（俳の字も諧の字も本来は「おどけ」の意味です）。

それが歴史的に次第に「まじめ句」に変ったのです（今でも「俳味」という言葉の中に名残りがあります）。

私は言葉遊びの入った句を作ることに意を強くし、さらにいろいろな言葉遊びの入った句を作るようになりました。また自分でも「数上り（あがり）」など、いくつかの新しい言葉遊びを考えつきました。つまり、はまりました。

《桜のことば遊び》

また別に、私は桜が好きだし、桜は日本の「国の花」でもあるし、今後は桜の言葉遊びの句を中心に作ることにしようと思うようになりました。またそのころ、この現代俳句協会に入りました。この会は、無季句、非定型句も認める懐の広さも持つので、私も窮屈な思いをしなくてもよいと思ったからです。

さて、俳句の雑誌などを読んでいると、「桜の俳句を百句作ろうと思い立ち、その名所に行ってみた」、などと記したものを時にみます。

しかし、その結果を記したものを見たことはありません。私もはじめ百句を目指し、とても高い目標に見えました。しかし、私の場合、これ

をすぐに達成、さらに年々増加し、五百句、八百句、遂に千句に達しました。流石にこの時は大きな達成感がありました。

《桜に専念する》

その後は内容の乏しい句、言葉遊び度の低い句を削ったり新しい句が出来たりで、千句程の線を保っています。私が桜だけで、しかもうまく作るのに相当難渋する言葉遊び句をこれ程多くの数作れたのは、桜の花や木などをよく観察したり、多くの桜に関する本や記事を読み知識を増やしたり、広く東京や京都、奈良県の吉野山、大阪、九州や県内各地の桜を見て回ったりした結果だと思います。

今後はこれらの句の発表（今までほとんどしていない）に重点を移したいと思っています。この原稿もその一つです。

《ことば遊びのおもしろさ》

なお、言葉遊び句の紹介は、多くの場合、その読み音とともに言葉遊びの内容（複数の場合も多い）も記す一種の自句自解が必要なのでそれらも記します。以下、それらの句の中からいくつかを記します。

●東西南期待の花に酔う
ひがしにしみなみきたいのはなによう
組揃い語「東西南北」音入り、掛詞「期た・北」、数（数音）上り１２３４（ひにみよ）。

●桜の木葉繁る夏至は気の楽さ
さくらのきはしげるげしはきのらくさ
全回文（「は＝わ」は回文のルール上許容）、擬人法。

●神人嘆絢爛漫関山林
しんじんたんけんらんまんかんかんざんりん
全交互同音「ん」、ん音多10、全漢字。関山は八重桜の代表的な品種。嘆は感嘆の嘆。

●船喘ぐ桜海峡潮の関
ふねあえぐさくらかいきょうしおのせき
もじり（下関を潮の関に）、擬人法「喘ぐ」、数音上り２３４（ふさし）。関門海峡。

●蓑虫を垂らしむのみに桜裸木
みのむしをたらしむのみにさくらぼく
隠れ倒言「みのむし・しむのみ」、尻取り「ら」。冬の桜の木。

●花片のつつつつつつつ伝ひ落つ
はなびらのつつつつつつつつたいおつ
「つ」音連続8、「つ」音多9、城石垣など。

●たちつて塔なにぬねのっぽ江戸彼岸
たちつてとうなにぬねのっぽえどひがん
無駄口（必要のない言葉を入れて調子をよくしたりする）「たちつて、なにぬね」。江戸彼岸桜は、北国に多い背の高い野性の桜。

●んっ？……大花吹雪が飛んでったんっ？……おおはなふぶきがとんでった
ん始まり句（まず見ない）、俗語「でった」。

●花希旬
さくらばなこいねがわくばとおかかん
少字数3。花、旬は意味読み、希は国訓読み。「花七日」という商人の嘆き言葉がある。

●高く高く咲き上り去る山桜
たかくたかくさきあがりさるやまざくら
物の名隠し「高崎山、猿」、頭二音折句「たか・さき・やま」。高崎山には山桜も多い。

いかがだったでしょうか。「ことば遊び俳句」という広大な世界の、ごく一端をご紹介しました。興味を持たれた方はぜひご連絡ください。

（県協会監事）

リレーエッセイ　連載⑥

「私と俳句」

甲斐加代子

「私と俳句」を語ろうとすれば、まず避けて通れないのが大師、宍井太先生との交りのことです。

もう七十年も前のことになります。当時、飯田中学校に赴任していた先生は、筋湯温泉から二里（八キロ）近い山道を歩いて通勤していました。先生は国語が担任で、赴任後すぐに学校新聞部を開設されました。中学校一年生の私は、その編集部員となったのです。思えば、この出会いが私の人生の方向を決定したのでした。

◇

昭和二十四年と云えば物資に不足した時代です。当時村会議員だった私の父が、用紙不足で困っていた先生に、用紙の予算を取ってあげたとのこと、後で聞かされて父とも交流があったことに驚きました。

先生はいつも単行本を小脇にかかえ、明治の詩人や俳人の歌を口ずさんでいました。授業はユニークで、笑いの渦です。私は先生とのこうした幸せな日々がいつまでも続くものだと、漠然と思っていました。しかしわずか二年で先生は上京してしまったのです。

◇

その後私は、筋湯温泉に明治時代から続いた老舗旅館「宝珠屋」の女将となり、結婚もして、忙しく働いていました。そこへ二十年ぶりに、ひょっこりと先生が現れたのです。

私の主人も先生の教え子だったせいもあり、先生との再会を喜び合いました。先生はすでに北九州に帰っており、「天籟通信」を発行していました。海程賞や現代俳句協会賞を受賞して、全国的な知名度も高くなっている頃でした。その先生から俳句道場への参加を強く勧められたのです。

私はもともと祖父や父や姉など、俳句好きの家庭で育ち、いつも俳句を身近に感じていました。そのDNAが引力となったのかも知れません。女将業に奔走して、とても俳句雑誌に目を通す余裕などなかったにもかかわらず、最終的に先生のお誘いを受け入れました。

◇

先生が九重で開いた高原句会に入会し、毎月一回六、七名で夜の更けるのも忘れて句会に没頭しました。先生のエネルギッシュな俳句談義は、女将である日常のしがらみを、ひと時忘れさせてくれるものでした。俳句の理論や技法など、よく理解出来ないことも多かったのですが、それでも魅力的な刺激がありました。

バブル期に入り、そのバブルは九重にも押し寄せました。宿も増築し、修学旅行やツアー客で溢れました。いきおい投句もさぼり気味になり、〆切が来ると直ぐ「多忙の中で感じる句こそ味のあるものが生まれる」と先生の催促ハガキが届きます。筆まめな師にはすっかり脱帽でした。

忙しさに流される一方の毎日でしたが、俳誌に自分の名前が載ることがうれしく、私にとって日常を振り返ることのできる貴重な財産となっていました。忙しい中でも人生の指針として俳句に向き合って行こうと心に誓いました。

毎年の天籟通信九重大会は、沖縄から新潟まで全国から、医師、弁護士など錚々たるメンバーが揃います。先生が掲げた「原郷樹林」の中で、私もそのメンバーに加わって育てられたことは、本当に幸せだったと感謝しています。

◇

今では子どもも成人し、女将役にも何とか余裕ができました。俳友という深い絆に誘われて遠く宮古島から、北は佐渡まで足を伸ばせるようになりました。思えば、寛大な理解で私を遊ばせてくれた主人や家族に感謝の気持ちで一杯です。

◇

宍井先生の没後も天籟通信の「九重吟行俳句大会」は、福本弘明代表の手で引き継がれています。三年前には五十回の記念大会も終え、会員の変わらぬ熱意に宍井先生はきっと喜んでくださって（次ページに続く）

いると思います。先生が始めた「高原句会」は、今は私が会長となって、ささやかですが続けています。

絵手紙をはみ出しながら野火走る

この句は第五十八回九州俳句大会で、トロフィー（九州俳句作家協会賞）をいただいた私の作品です。生涯をこの九重の地に生き、九重の地で句友と交わる、私の偽らざる心境です。また私の宿「宝珠屋」の庭には穴井先生の

めしが出て三日月の出る宴つづく

の句碑が句会員の手で建てられ、毎日のお客様を待っています。

◇

穴井先生のご縁で金子兜太、横山白虹、藤後左右、石牟礼道子ら多くの俳人と交わり、また多くの俳人を「宝珠屋」にお迎えすることができました。それらの方が残された多くの色紙や短冊をこの宿の歴史として保存するだけでなく、多くの方にご覧になっていただくことが私の使命ではないか、そんなことを考え始めた今日このごろです。

了

《会員の表彰・受賞等》

・第57回現代俳句全国大会（R2）
〔秀逸賞〕
永らえておれば蚯蚓も亀も鳴く
成清　正之
かもめ抱いて少女式典の外にいる
瀬川　剛一

・第57回大分合同読者文芸年間賞
〔選者　谷川彰啓推薦〕
甲斐加代子
燃やしても消えぬ歳月七かまど
初雪の杉山抱いて眠る夫
うぐいすの谺無人の大吊橋
生涯は道草ばかり春りんどう
（推薦のことば）
九重町筋湯で老舗の女将を務めながら、長い間熱心に投稿を続けられた甲斐加代子さんを推薦します。

・佐藤　珠幸氏　展示会
県協会会員であり、東陶会所属の佐藤珠幸氏は朝倉文夫記念館ホールで「第27回椿窯佐藤珠幸陶展を5月30日まで開催しました。

・第4回　山里俳句コンテスト
〔最優秀賞一席（岡崎市長賞）〕
水分（みくま）りの故山に眺む雪解富士
小野　智輔

《新会員紹介》

赤峰佐代子（九重）
願いごとひとつ増やして秋遍路
東　香代子（大分）
再会の友と頬張る初鰹
小野みち子（大分）
寝ころべばそこがふるさとねじり花
本田　圭子（大分）
フリージアの似合う家です空家です
白土　正江（大分）
膝小僧丸めてそっと秋を聴く
林　香澄（九重）
この春を振り返る日の地球色
溝部　文夫（国東）
球根に春の訪れ託す母

《退会》

古田　旦子（3月5日付）
山本　進（3月12日付）

夏季勉強句会開催

平成29年から休止していた夏季勉強句会を復活します。参加者提出の俳句を事前に一覧表にしておいて、当日は選句からスタートします。

続いて披講、選句、選評の順で進行しますので、これまで句会の経験がない人でも、句会の運営の方法が学べます。地域で句会を起ち上げる際の参考にしてください。

選句で高得点を集めた句は、「素晴らしい」で済ますのではなく、「どこがどう良いのか」を検証します。また点数が入らなくても良い作品は埋もれさせずに拾い上げます。

「作品が良いかどうかは読む人次第。他人がとやかく言うべきでない」と思っていませんか？そんな方には目からウロコの楽しい句会になります。初心者、非会員大歓迎です。

○

日時：令和3年8月29日（日）
12時半～15時半
会場：大分コンパルホール301会議室
投句：参加予定者のみ。事前に3句を事務局まで。締切8月21日
兼題：夏の句なら何でも可。
会費：会員無料、非会員500円（当日）
※今から受けつけ開始です
※見学のみは無料です（要予約）

令和三年　大分県現代俳句大会の記

令和3年度の「現代俳句大会」を中止せずに紙上で開催するという方針は昨年12月の幹事会と役員会（いずれも文書）で決まっていたが、紙上だけでは盛り上がりに欠けることは容易に想像される。総会決定の「県協会の影響力を強める」こととどう両立させるかが悩ましいところであった。問題は、会員外の人にどうやって大会を知らしめるかである。

それで従来とは全く違うデザインの作品募集用紙（以下ビラ）のひな形を作成し、幹事会（＋α）に送って意見を聞いた。文面やレイアウトについてとても熱い提案を受け、それを極力紙面に活かした。（上写真）

大分県現代俳句大会
＝作品募集＝
【投句締切】令和3年3月31日（水）消印有効
名前
住所
電話

後援の団体をを増やすこと、一般投句者へのコメントを特典につけることはすでに昨年承認を得ていたが、具体的にどうするかは経験がないのでまったくの未知数である。

各団体への後援依頼からはじめる。コロナ禍で幹事からの応援が貰いづらい上に、私は脳梗塞から退院間際の身である。呂律が十分に回らない状態で、各団体の担当部署に一生懸命訴えた。事業計画書が別途必要だとか、収支予算書を添付しろとか、とにかく一度では終わらない。二度三度と豊後大野市から出向き、やっと全ての後援を取ることができた。

後援団体は以下のとおり。大分県、大分市、大分市教育委員会、大分県議会、大分市議会、大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB朝日放送。

2月23日、出来上がったビラを全会員に届けて、大会成功に向けての協力をお願いした。近いうちに総会の議案書を届けることになっていたが、一緒にすると郵送費が助かる分、印象が弱くなる。それで涙を飲んで別便で届けることにした。これが成功して、後に会員が大きなバックアップをしてくれることになった。

大会ビラを置いて貰うように、コンパルホールやホルトホールに何度も出向いたが、その場では何も言わず電話で「公的なもの以外はおけない」と断って来た。県も市も後援をしているではないかと食い下がっても、まるで聞く耳を持たない。地域の普通の公民館は快く置かしてくれるのと対照的だった。

大分合同新聞の「ぶんぶん」らんの広告費は、後援団体は三分の一というので、今回初めて三回掲載した。

またこの広告を見た朝日広告の担当者が、広告枠が突然のキャンセルになったので、それを埋めるため格安でどうかと打診してきた。迷ったが滅多にないチャンスなのでお願いした。それがページ下の写真である。

効果はてきめんで、これまで協会と交流のない人から二十件を超える問い合わせや応募があった。

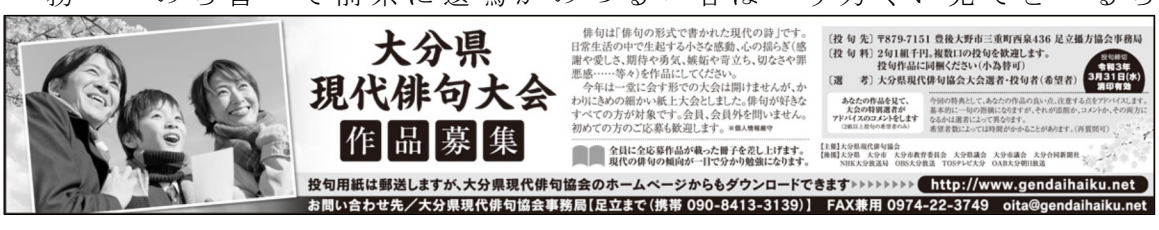
結局3月末の締切までに総数558句の投句が寄せられた。内容は会員が386句、会員外が172であった。内訳を見ると会員の投句者が74名、平均投句数は5.2、会員外の投句者は47名、平均投句数が3.7である。

まだまだ大分県の俳句文化を担うという目標からすると微々たる成果であるが、県単独の行事としては、かつてない広がりを見せたのではないだろうか。多くの協会員の協力が、何よりもうれしかった。

この大会では会員外の希望者に投句作品のコメントをつけるという特典をつけた。予想外の24名から申込があり嬉しい悲鳴をあげた。各選者は快く回答にあたった。他県他団体ともに前例のない試みではないだろうか。

たくさんの喜びの声が寄せられ、そのうちの五人が入会した。感謝。

（幹事長兼事務局長・足立攝）



《発展基金協力者》

※一口千円です。

《会員外の方》

夢野はる香　3口　R3・1・5
山本　悦子　2口　R3・1・6
田中　葉月　5口　R3・1・21
甲斐　順子　3口　R3・2・8

《会員》

宮川三保子　3口　R3・1・4
桐野　力　3口　R3・1・4
有村　王志　3口　R3・1・5
大川　千明　2口　R3・1・5
管　薫　2口　R3・1・5
菅　攝子　2口　R3・1・5

句会探訪⑨

大分市　子鹿の会

「子鹿の会」は平成二十七年、富士見が丘公民館の俳句教室として誕生した。今年七月でまる六年になる。会員は現在五名。少人数ならではの特性を活かして、きめの細かい楽しい句会を心がけている。

全員、俳句経験がこれまでなく、この句会が初めてという。まず定型の十七音の中に言いたいことを要領よくはめ込む練習からスタートして、次第に書きすぎないこと、思いを「ものやこと」に託す、その託し方を覚えていく。

以前は例会の前に当季雑詠で三句を提出して貰っていたが、平成三十年からは六句出しになった。入会数年の初心者にはかなりのスパルタだと思うが、いつのまにか配句に気を使う余裕も出てきた。

そのせいか、上達は全員早くて、平成三十一年にメンバーのHさんは天籟通信新人賞を受賞したし、Kさんは県現代俳句大会で大分合同新聞社賞を受賞した。

他のメンバーも実力は拮抗しており将来が楽しみな句会である。例会は毎月第一火曜日の午前十時から。子鹿の会という名の由来は、例会で使う部屋の名が「小鹿」だから。全員が天籟通信、及び県協会の会員である。（攝）

原田　勝子　2口　R3・1・5
岸本千鶴子　1口　R3・1・6
平田千代子　2口　R3・1・7
倉迫　順子　10口　R3・1・12
谷川　彰啓　5口　R3・1・15
児玉　利子　3口　R3・1・17
佐藤　哲夫　3口　R3・1・17
赤嶺　信子　2口　R3・1・18
坂本　一光　2口　R3・1・18
佐々木　玉　3口　R3・1・20
田中　充　3口　R3・1・21
灘波　瑞枝　2口　R3・1・22
甲斐加代子　5口　R3・1・26
森山　秀子　1口　R3・2・19
鎌倉真由美　2口　R3・2・21
大神　愛子　2口　R3・3・3
大森　浩司　1口　R3・3・3
上田たかし　2口　R3・4・18
河野　輝暉　5口　R3・4・20

※たくさんの協力金をありがとうございました。発展基金通帳で保管して、必要な時に大切に使わせていただきます。

第58回現代俳句全国大会作品募集

・締切7月31日必着
・投句料3句1組で二千円
・新作未発表に限る
・事務局に応募用紙があります。また本部HPからダウンロード可

第2回雑詠句会作品募集

◇当季雑詠3句を、FAX、ハガキ、メール等でお送りください。
◇締切は6月30日（水）消印
◇宛先は事務局まで
◇同封の第1回雑詠句会の選句用紙を使ってもOKです。

令和三年五月三十日発行
会報第百二十二号
発行人・有村　王志
発行所・大分県現代俳句協会
編集人・足立　攝

大分県現代俳句協会
OITA-KEN GENDAI HAIKU ASSOCIATION
会長　有村王志
《事務局》
〒879-7151 大分県豊後大野市三重町西泉436
足立　攝方
TEL.&FAX. 0974-22-3749 郵便振替 01900-5-57481
URL:http://gendaihaiku.net
E-Mail: info@gendaihaiku.net